

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590400075		
法人名	社会福祉法人 徳栄会		
事業所名	グループホーム さくら坂		
所在地	日南市大字楠原1797番地1		
自己評価作成日	令和5年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和5年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人の、その人らしさを尊重し共に家族や地域との繋がりを大事にし、安心出来る環境の中で生活出来るように支援を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者のその人らしさを大切にすることを理念に掲げ、対応方法や共有空間作り、活動などに活かしている。入浴の希望や趣味活動、食事、地域を題材にしたクイズなどの際に、個性を大切にされた対応を行っている様子がある。コロナ禍で制限されることも多いが、職員間の情報共有ではSNSを活用したり、職員との個別面談を実施したりするなど、配慮しながら事業所運営を行っている。勉強会では、職員がレポートを書く機会を設け、更なる実践力の向上に向けて取り組んでいる姿勢が確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、利用者様一人一人の意思を尊重しながら家族や地域との繋がりを大切にし、安心できる環境の中で生活が出来るよう努めている。	玄関に掲示し、すぐに目に付くようにしている。職員とは個人面談にて理念の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスにより、地域との交流が減少していますが、時折野菜等の差し入れがあり、多少ではありますが、交流させて頂いております。	コロナ禍前は、地域の敬老会等に参加し交流を行っていた。また、散歩の際に、地域の方と挨拶を交わすなどの機会があった。アフターコロナに向けて、オレンジカフェへの参加や音楽療法なども模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスにより実践する事が難しく、出来ていない現状であります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス過の影響により、集まった運営推進会議は出来ていませんが、書類を作成し配布を行っております。	コロナ禍のため、ホームの状況や取り組み等について、文書にて配布を行い、書類にて情報の共有をしている。不明な点は電話にて対応している。報告することが多く、意見交換を行う点で課題がある。	書面開催で、報告が主になっている。質問を投げかけることや問題提起を行うなど、回答を得やすい方法を検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かある都度、市の担当である介護保険課の藤田様に連絡をさせて頂き、指導・助言・確認を行う事により、協力関係を築けるよう取り組ませて頂いております。	法改正や手続き、運営推進会議など個別事例の対応などで、分からない事があった場合に助言・指導を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より、夜間の防犯対策以外での施錠は行っておりません、解放することにより行動抑制をしないよう努めております。また、身体拘束についても勉強会を開き学ぶ機会を設けている。現在身体拘束を実践した経緯はありません。	徘徊等で対応が必要な方の場合は、常に付き添いを行い、見守り所在確認を行っている。勉強会の内容は書面で共有し、職員ごとにレポートを書いてもらうことで、意識の共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しても、身体拘束同様に勉強会にて開催し学び防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は一人の利用者様が成年後見制度を利用されていた為、成年後見制度について多少の知識は得れていたが、現在は制度を利用されている利用者様がいない為、個々で学習して頂くよう指導を行っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者と計画作成者二人で対応し不安ごとがや疑問にお答えできるように取り組んでおります。改定の際は内容をお伝えし文章でのてい		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来設時や面会時に意見・要望などを聞くようにし、出来る範囲で内での対応をさせて頂くとともに、職員にも申し送り時に伝えるよう努めています。	面会時などに意見・要望を聴くように努めている。日々の過ごし方や個別の希望などが主である。家族より、仏壇を居室に入れて欲しいとの要望があり応えるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、職員より意見があれば、時間を設け意見や提案を聞き、必要な事であれば理事に伝え改善出来る部分は早期に改善できるよう努めている。	職員とは個別面談を通して、意見を聴く機会がある。またSNSを活用し情報共有を行っている。身体状況に応じた部屋割り、席の配置、勤務体制などに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員一人一人と話し合いを行いながら、出来るだけワークバランス取れるよう勤務表及び労働時間帯等を考慮させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の悩みや疑問があれば、その都度、話し合いを行い自信をつけて頂くよう努めている。また、職員の悩んでる事を取り上げた、勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて行えておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に必ず、ご本人様と面談を行い不安感が無いよう、可能な限り入居日までに環境を整えるように努めている。また、入居者様の不安を軽減し精神状態を安定させる為、声掛け・目配り・気配りを重点に実施させて頂き入居者様との関係作りを推進させて頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居された最初の月には、こまめに連絡をし情報をお伝えするよう努めております。また、家族様に対し、意向や要望などの確認、家族の可能な対応について確認を行い、安心して生活ができるよう考慮させて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様一人一人の心身機能の状態、病状、家族の意向など考慮し福祉道具貸与等の検討をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の得意な事を一緒に取り組み、教えて頂きながら役割や居場所を見つけて頂けるよう支援を行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様がお困り事や体調の変化が見られた場合は、家族に相談しながら一緒に解決できるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて外出は出来ませんが、各入居者様の出身地の話やクイズを取り入れながら、懐かしんで頂けるよう努めております。	面会では感染対策を行い、会う機会を設けている。船や漁、餌肥城下町のクイズや話題を用いて、繋がりをを感じる機会を持っている。また、発言から大切にしてきた関係性を把握するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションを取り組んだり、一緒に趣味や考え方と一緒に作業出来るような時間を作れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去された方についても、現在の状況や状態などを家族より確認することがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とのコミュニケーションの中で、体調や気分を伺いながら、無理なく出来る事を取り組んで頂けるように努めております。	生活の中での意向を大切に、折り紙や漢字ドリル、音楽を聴くなどの活動につなげている。意思表示が難しい場合は、一つひとつ試すことで、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネジャーや家族より情報収集し、ご本人の意向を聞きながら洗濯物たたみやお盆ふきなどさてくれた方は体調や気分に合わせ取り組んで頂けるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス利用まで、暮らしについて家族及びケアマネジャーより情報収集をする事と、お一人お一人のサービス内での状態を確認する事で、現状の把握に努めてさせて頂いております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、家族、ケアマネジャーより情報収集をし、意見・意向をお伺いし計画書に反映できるように努めています。	入居者ごと担当職員がモニタリングを行う。医療的な支援も計画に位置付け、ケアに反映できるように取り組んでいる。管理者としては、更なる実践力の向上に向けて、取り組みを行っていく意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の関わりについて記録をし、職員間での情報共有を生かし支援に反映させて頂いております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状態変化時、ご本人様を含め家族の状況を考慮し、その時に応じた対応をさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物のご希望がある場合は、コロナ禍にて外出が制限されている分、職員が買い物に行き、極力希望に添えるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診困難な場合や緊急時にも家族の対応が困難な場合など、施設職員が対応をさせて頂いております。	基本は家族による受診であるが、実際はホームが受診支援を行うことが多く、直接連携を図っている。また訪問看護が週に1回訪問し、かかりつけ医への報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており状態報告や意見交換を実施させて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の状態や家族の支援状況など考慮し、家族と医療との仲介等を行い、連携を図っています。入院時には、情報提供書を退院時には情報供与を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対し地域医療の現状を説明させて頂き、重度化時の方針について、話し合いをさせて頂いております。又急変時には、家族へその状態に応じた方針について話し合いをさせて頂いております。	ホームには特殊浴槽があり、重度化した場合にも対応している。本人・家族には、ホームの体制について説明している。医療機関を含めた対応についても伝え、入院希望をされる方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、連絡・報告を行い、状況に応じて訪問看護の連携もさせて頂いております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施する際は、日中や夜間帯を想定した動きなども確認しております。	火災以外にも、土砂崩れ・建物崩落・地盤沈下を想定している。地域の避難所になっており、同法人の他施設と連携して対応する体制である。また、3日ほどの水・缶詰等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの性格やプライバシーに沿った声かけを行っております。	プライバシーに配慮した声掛けや、その人の性格に合わせた声掛け対応を行っている。入居者の状況に応じて、言葉遣いに注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、各入居者様の希望や意向に沿えるよう話しは、傾聴させて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスケジュールは決まっていますが、体調不良時や気分がのらない時などは、ご本人のペースに合わせてるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、一つの選択だけではなく、数種類準備をしご本人に選んで頂くよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態に合わせ、おかゆ等適宜に対応させて頂いております。時には各入居者様の嗜好の把握をし、味つけ・準備・片付け等、出来る範囲内の事を入居者様と一緒にさせて頂いております。	誕生日の方に、本人の食べたい物を聞き提供するなど、入居者の希望も取り入れて提供している。以前は外食なども取り入れ、楽しみの機会になるように対応してきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量は1500mlを目標とし、嚥下状態を確認しながら食事摂取量、水分摂取量の把握をしバランスのとれた食事を提供できるよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清潔保持に声掛け・見守り・誘導などを実施させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の心身の状態に応じた排泄を考慮し、出来るだけトイレでの排泄が維持できるように支援しております。	記録に基づき、トイレ誘導の声掛けを行う。また、表情や仕草を観察し、誘導の声掛けを行っている。夜間の排泄状況の確認には、「眠りSCAN」という機器が活用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状態、食事摂取量、水分摂取量の把握をし医師との連携を図り、個々の身体状況に応じた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、本人様の希望やタイミングに合わせた声掛けをし、毎日入浴を提供できるよう努めております。	週に3回は入浴できるように対応している。拒否のある方には、無理強いをせず、足浴や清拭、更衣を行いながら、様子を見て入浴に誘っている。愛用のシャンプーや石鹸等を使用し楽しめる工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の心身状態を考慮し各入居者様のリズムで休憩、睡眠を取って頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設側で管理させて頂いております。服薬時には、職員間で確認を行い服薬して頂いております。また、医師・看護師・薬剤師との連携を図り用法、用量についても理解を促すようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族、ご本人の希望を聞き個別支援が出来るように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、外出制限のため実施はできておりません。	病院受診の際に、ドライブを行う機会がある。感染症の状況や、季節などに応じて、屋外に出る機会を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭所持に関しては、ご本人とご家族様の意向に沿っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の入居者様には、電話で家族とコミュニケーションを取って頂いております。手紙のやり取りに関しては、希望される方がいらっしゃらない現状であります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には必要以外は控え、留めております。モダンな照明器具にソファがあり、畳の間があり落ちついた空間であります。ソファに座りテレビを見ながら会話ははずみ、くつろいでいただいております。	感染症対策の為、換気を行うが、温度計や入居者の表情等をみながら、室温を調整している。入居者の特性に応じて、掲示物や置物を工夫して配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座られ入居者様同士、雑談をされ交流を促進させていただき、出来るだけ自由に過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは、特に制限はしておらず、要望があれば、家族へ伝え持って来ていただいております。	希望に応じて、仏壇や使い慣れた筆筒、昔から持っている人形などを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内外共にバリアフリーとなっております。安全面には配慮しております。掲示、表示には必要最小限とさせて頂いており、入居者様に確認できるよう、支援させて頂いております。		